

Title	三田史学会例会；第十六回早慶連合史学会；三田史学会大会；国史談話会見学旅行(新入生歓迎会)；史学科夏期見学旅行；東洋史談話会例会
Sub Title	
Author	
Publisher	三田史学会
Publication year	1969
Jtitle	史学 (The historical science). Vol.41, No.4 (1969. 3) ,p.121(619)- 122(620)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	彙報
Genre	
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19690300-0121">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19690300-0121</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

# 彙報

## 三田史学会例会

昭和四十三年五月十日 於三田西校舎五一七番教室  
新入生歓迎会

講演

ロンドンの古代遺跡

小川英雄氏

天女アプサラの国

近森 正氏

—カンボジアの生活から—

## 第十六回早慶連合史学会

昭和四十三年六月十五日 於慶応大学西校舎五一七番教室

研究発表

マーシャル・プランについての史的考察

慶大 小川決子氏

中江兆民の思想構造について

早大 暉峻康人氏

日本における抜歯風習について

慶大 渡辺 誠氏

「奴変」の性格について

—地主・奴僕の関係からみたその一面—

公開講演

早大 細野浩二氏

ドイツ史の特異性について

早大 十河佑貞氏

終了後西校舎会議室にて懇親会が開かれた。

## 三田史学会大会

昭和四十三年十二月十四日 於三田西校舎五一九番教室  
学術講演

アシジのフランスと宗教運動

坂口昂吉氏

奈良朝貴族の生活圏

井口悦男氏

歴史における夢

前嶋信次氏

学会報告・記録映写

古代遺跡を訪ねて

—ウルからクノソスまで—

清水潤三氏

終了後西校舎カーテンルームにて懇親会が開かれた。

## 国史談話会見学旅行（新入生歓迎会）

昭和四十三年五月廿八日

武蔵野郷土館

史学科夏期見学旅行

七月一日～五日

仙台市周辺―牡鹿半島―平泉周辺―北上市―盛岡市(解散)

東洋史談話会例会

昭和四十三年五月二十日 於一二二番教室

十六世紀初頭のインド洋におけるポルトガルとエジプトの関  
係史 湯川 武

アラビア論理学史の展望 岩見 隆

昭和四十三年六月二十四日 於一三一番教室

「孟子の心性論」―Mencius on the Mind; I. A. Richards  
―の紹介を通じ、中国古典の解釈をめぐつての一般的問題点に  
ついてのノート 高山方尚

昭和四十三年十二月六日 於四一二番教室

プラナーナについて 高橋英二

昭和四十三年十二月十六日 於五三三番教室

タゴールの日本ナショナリズム批判

臼田雅之

研究発表要旨

「孟子の心性論」―Mencius on the Mind; I. A. Richards―  
の紹介を通じ中国古典解釈をめぐつての一般的問題点  
についてのノート 高山方尚

全四章中第一章「翻訳の諸問題」を紹介することゝあわせて、  
その日本の特殊性を歴史的に回顧し、その問題の重要性等を具  
体的例証のうちに考察したものを発表した。

第一章の内容は、現在ほとんど喪われようとしている中国の伝  
統的古典解釈の技術と、それに忠実であろうとした過去の西洋人  
の方法と、そのいずれからも全く自由な論理的解釈とを対置し、  
この三者の比較検討を著者独自の立場(「意味の意味」等に於ける  
言語学的方法)から、いわば第三の中国古典「理解」への可能  
性を論証しているものである。

以下の諸章は時間の都合上次の機会を待たねばならなかった。  
以上の内容の紹介に、一、二の未紹介の著者の中国語学関係の  
論考を参考迄に挙げておいた。

十六世紀初頭インド洋におけるマムルーク朝エジプト  
とポルトガルの関係 湯川 武

ヴァスコ・ダ・ガマのインド航路発見によつて東方に進出する  
こととなつたポルトガルは、インド洋の制海権を得て、それによ